

協同組合連帯で気候危機などの課題に立ち向かう

1999年に和歌山県・海草郡内と海南市の4農協が合併して発足した「ながみね農業協同組合」(JAながみね)の「しもつ営農生活センター」は、エスコープ大阪産直第1号の温州みかん生産者の「豊共園」(海南市下津町)が地元の農協として協力を得ているところです。産地では灌水作業などを協力し合う産地のコミュニティがないと農業を継続していくことは難しく、豊共園も豊共園だけで栽培を完結することはできません。日々地元の農家に営農指導や状況調査などをおこなっている土谷さんに、産地の現状や課題、今後についてお話を伺いました。

(聞き手:理事会事務局広報担当 岡 公美)

予想がつかない天候が
みかんの樹に与える影響

岡 2018年の西日本豪雨災害では、エスコープ大阪の生産者もみかん園地が流されたり大きな被害を受けました。気候危機の影響についてどのように感じておられますか。

土谷 下津地域では年間降水量はさほど変わりません。天候の予想がつかなくなっています。極地的で雨の降り方が以前とは違います。降らないときは樹が枯れるまで降りません。管内のみかん栽培(豊共園以外)では防除薬剤の散布のタイミングを逃したり、散布しても適度な雨ではないため薬剤がすべて流れてしまい、効果が出ずに外観に影響する病気が多く発生しています。

樹にも大きく影響し、ダメージを回復しようと実をつけずに休んだり、子孫を残そうと実を多くつけようとしたり両極端で、表年と裏年の波が大きくなります。6、7月にかけて樹自身がどうするか決めるのですが、その頃の曇天と降雨が影響します。表年では小玉傾向で浮き皮が出やすかったり、裏年では大きくなっても皮がゴツゴツしたものが多かったりします。夏だけでなく、1、2月の出荷時期に暖かく湿った空気が入り込んでくるとみかんに露がついて腐りやすくなります。

後継者がいない
持続可能な農業はない

岡 作業にも影響しますね。後継者問題などはどうですか。

土谷 労働時間が長くなり、また今の気候は体への負担も大きくなっています。暑さ対策のための空調服があるのですが、これまでは着ていない人がほとんどでしたが、着る人が増えています。2018年の被害のような場合は国の災害認定があつて救済措置が適用されますが、そこまでに至らない場合は各農家で対応するしかなく経営面でも大変です。

岡 現状の課題を生み出しているのは、気候なのか農政なのか。何が一番影響しているのでしょうか。

土谷 気候・農政・後継者問題、どれも課題があると思いますが、一番は後継者問題だと思います。みかんの供給は国内で約300万トンだったのが現在は約70万トンと4分の1から5分の1に減っています。現在60代ぐらいの方々が農家を継ぐか継がないか考える時期に農業を選ばなかったことで供給量が大きく減りました。全体の供給量が減ってもみかんの取り扱い単価はほとんど変動がなく経営的に不安があるのは確かです。親の世代を見てもそうだし、親の世代が子ども世代に勧められないケースも多いと感じます。また気候危機の中では農作物の収穫量が安定せず先行きの不安があると思います。

シーズン予約のしくみは
とてもいい取り組み

岡 「JAながみね」ではどのような対策をすすめておられますか。

土谷 課題解決には親の世代が余裕を見せられることが子ども世代に

大きく影響を与え
ると思っています。
ます。今ある樹
で、最短距離で
収益を上げるた
めに何が重要
なのか考え、一
緒に頑張ってい
ます。高温多雨
に強く浮き皮に
なりにくい品種
として、和歌山
試験場で開発
されここ1、2年
で出回るようにな
った晩生の「植美
」という新品種
や、早生の「由
良早生」、中生
の「石地温州」
など品種の推
奨や指導を進め
ています。また
、農地の貸し
借りの仲介役を
JAがすることで
万一のトラブル
を回避し、安心
して農業をす
めることができる
ようにしています
。JAとしては今
後もみかんを主
軸とした産地を
継続していくこ
とをすすめてい
ます。

岡 それは良い取り組みですね。産地コミュニティの継続をすすめていくということで、私たちの生産者の持続可能性も担保されると期待します。

エスコープ大阪では、シーズン前に消費する量を約束することで、生産の安定と安心につなげていく取り組みを40年近く続けてきました。今後を考えていく上で外部からの評価も知る必要があると思っています。

土谷 適期収穫・消費も可能となりますし、とてもいい取り組みだと思います。管内の生産者も、購入者の評価を意識する人も増えてきています。これからも生産者と一緒に調査・研究していきたいと考えています。

岡 いろんな理由で私たちのみかんも減収の年が多くなっており産地の状況を危惧していましたが、今後も継続して産地形成に取り組んでいくことを伺い良かったです。一緒に頑張っていきましょう。



サポートしていただいた豊共園の梶本元文さんと北辻美樹理事長



ながみね農業協同組合
しもつ営農生活センター調査役

土谷 賢太郎さん

わたしたちの 食べる約束は、 産地の持続可能性に つながっている

エスコープ大阪の産直第一号は「豊共園」の温州みかんですが、長年取り組んできた中で、みかんの生産構造における問題や、オレンジの自由化、ポストハーベスト農薬の問題などさまざまな課題に向き合い、私たちはどのようにして食べるかを生産者と共に考え、先を見据えた仕組みをつくってきました。私たちの「約束して食べる」仕組みは生産と消費を持続可能なものにする確信を、一方、近年では異常気象が多発し、産地の現状はますます厳しいものとなっています。現状を知り、「約束して食べる」取り組みをすすめていきたいと思います。

世界でおこっていることは 無関係ではない

最近の気候は予測できない現象が起こっています。日本では北海道で37度を超えるほどの暑い日があったり、雨の降り方も異常で毎年のように土石流が発生しています。韓国では雨量が一日600ミリを超えて地下鉄が水没したり、オーストラリアの洪水、アメリカの山林火災など、今までにない気候による災害が起きています。私たちの生産者も例外ではなく、この世界的規模の気候危機の影響を受けています。

2018年には私たちの温州みかんの産地



2018年の豊共園の被害



2019年のりんご生産者の被害

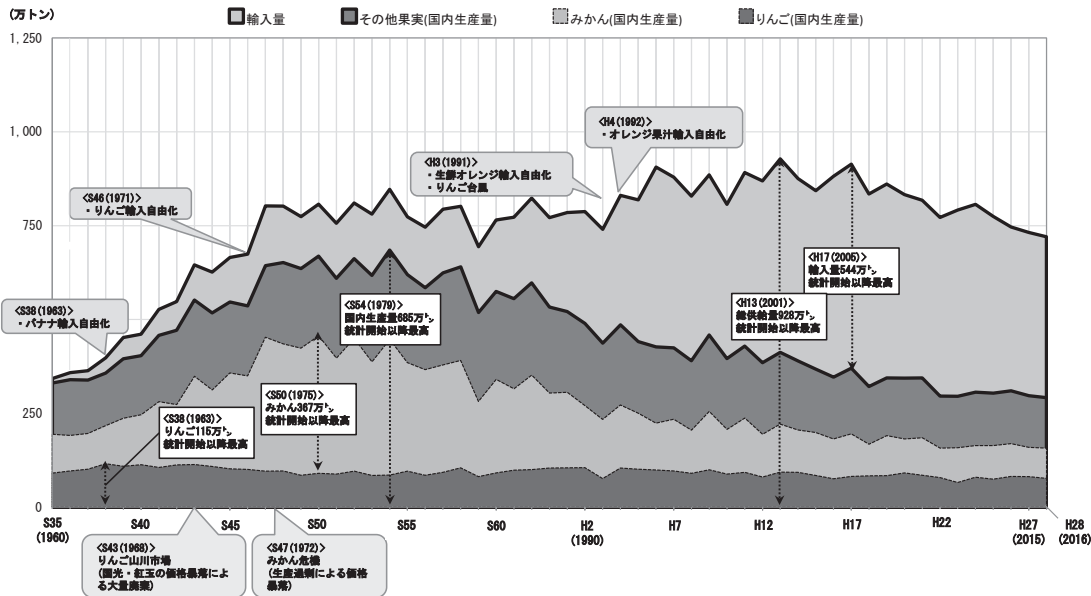
このような状況下で、日本の就農人口は減少が続き、農地は耕作放棄地が増えています。私たちの温州みかんの産地も同様の課題があります。温州みかんの農地は3万7千800ヘクタール(2020年)で、前年に比べ900ヘクタール(2%)減少しています。2018年に比べると1千800ヘクタール(5%)減少しています。これは、生産者の高齢化による労力不足に伴う廃園があったこと等によると農水省も報告しています。

日本の農業政策による結果

である和歌山県下津町で集中豪雨が発生し生産者の「豊共園」の園地で土砂崩れが発生しました。2019年の長野県の豪雨災害(千曲川氾濫)では生活クラブ関西4生協のりんご生産者の園地が水没し土壌汚染が起こりました。その農地を元に戻すには大変な労力が必要で、損害額以上のダメージがあります。

【図1】果実の需給構造(生産量、輸入量の推移)

- 果実の生産量は、戦後大きく増加し昭和54年にピークに達した後、現在に至るまで減少を続けている。
- 輸入については、自由化に伴って段階的に増加傾向にあったが、近年は減少傾向。



金額ベースで日本の果実の産出額は約8千500億円で、農業総産出額の1割程度を占めています。品目別では温州みかんとりんごで果実産出額の4割程度を占めています。カロリーベースでみた日本の食料自給率は37%(2020年)で、主要先進国の中でも一番低くなっています。温州みかんは自給率101%(2020年)で果実の中でも自給ができていますが、生産数の推移(図1)でみると1975年(昭和50年)をピークに減少しています。国は一時、温州みかんとりんごは供給過剰を前提に対策をとっていましたが、もはや現状は供給過剰の状態ではないと見ています。いつ自給できなくなってもおかしくありません。

参考:「作物統計調査令和2年産みかんの結果樹面積、収穫量及び出荷量」、果樹農業に関する現状と課題について(2019年)(農林水産省)など

どうして シーズン予約をするのか

農産物の生産現場では気候危機の被害リスクがあることが前提となっており、また農家や農地の減少もあり、これまで以上に生産への不安があります。私たちがこれまで取り組んできた、生産と消費の不安を解決するための仕組みである「予約して食べる」ことを基本として維持しなければ私たちの食は守れません。「きれいな見かけ」の市販基準ではなく、生産者と組合員が目合わせをして決めた「味に影響のない見かけの悪いみかん」も食べる基準を持つことや、毎年「これだけ食べる」と約束することで、生産者はせっかく栽培したみかんを廃棄したり別の売り先を探して低価格で販売することもなく、安心して生産することができます。生産に集中でき、組合員と生産者自らも懸念する農薬の使用についても必要最小限にとどめ、有機質中心の肥料で栽培することが可能になります。

昨年と同じように しっかりと 予約することが大事！

温州みかんのシーズン予約は、エスコープ大阪産直第一号の「豊共園」と、和歌山県日高川町・有田市の「アイワ研究会」、大阪府岸和田市の「植田さん」です。みかん畑の状況や土が違つので、それぞれの味があり、どこのみかんが届くのかも楽しみのひとつです。2021年産の3産地の収量予測(下表参照)は計150トン前後で、前年より減少するとしています。豊共園では老木を中心に着果量の減少が見られ、若干の隔年結果傾向が見えます。アイワ研究会では、花は少なかつたものの着果はますますと思われていましたが、多少

- 供給回数は41～2週(1週は企画なし)の12週間で、昨年同様です。
- 10kg規格は休止し、5kgと1.5kgの規格(本来2kg、前年は1.8kg)を供給します。
- 必要な量と回数を予約することができます。

まだ予約していない方は、10月1日(金)まで
電話(072-293-4660)で予約を受け付けています。

温州みかんはビタミンCがたっぷりの果物で、中くらいのみかんを2つ食べると一日に必要なビタミンCの約半分が摂取できます。毎月1回以上は予約して、今年の冬も「私たちのみかん」を食べて家族みんなで元気に過ごしましょう。

今年度も
カタログで取り組みがない
みかんです。
予約して食べましょう。

【生活クラブ関西6生協の温州みかん供給推移】

	2021年予測	2020年実績	2019年実績	2018年実績	2017年実績
豊共園	113,000	133,323	103,182	112,081	105,150
アイワ研究会	36,000	49,398	40,823	51,311	34,602
植田さん	3,000	3,129	3,278	3,450	3,383
合計	152,000	185,850	147,283	166,842	143,135

の隔年結果と、早い梅雨入りが影響して着果後の生理落果が多かったことが減少の要因です。そのため、今年度の企画や規格量を調整しました。

※1 隔年結果：果実がたぐさんなる年と少ししかならない年とが交互に現れることをいい、果実数の多い年を「表年」、少ない年を「裏年」といふ。

※2 生理落果：みかんの木が生命成長維持などのため生理的な原因で自ら実を落とすこと。

連合消費委員会

第48回 生活クラブ 庄内交流会

7月26日(月)
オンライン開催

消費担当理事 沼田 典子



生活クラブ関西6生協の主産地づくりの 意義をあらためて感じました

庄内交流会がオンラインで開催され、山形県庄内地域の生産者と生活クラブ連合会、各生協からの組合員あわせて約196名が参加し、熱のこもった活動報告と意見交換の場となりました。

米の生産者「JA庄内みどり(遊佐町共同開発米部会)」が、品種・農法・価格・流通・食べ方まで作り手と食べ手が直接話し合って創り上げた『庄内遊YOU米』は、特別栽培米となり環境保全型・循環型農業を実践するお米となりました。組合員が「約束して食べる・登録して食べる」ことで、生産者が減農薬、専用肥料、有機肥料の開発をおこなうことができ、「引き続き第二世代が中心となつて、食料生産地として発展するようにがんばります」と、力強い声が聞けました。

関西6生協と生活クラブ北海道以外の生活クラブで供給している豚肉生産者の「平田牧場」からは、飼料用米についての話がありました。休耕田を利用して飼料用

米を栽培する取り組みが始まり、その後、環境保全型の「飼料米プロジェクト」がスタート。遊佐町、JA庄内みどり、平田牧場、山形大学、生活クラブなどが提携して、平田牧場の堆肥も使用して飼料用米を生産することで、地域循環型農業に近づけ、日本の穀物飼料自給率を高め、水田を守り、水を守ることを目指しています。飼料用米を給与した豚は、肉質も食味も評価は良好だそうです。関西6生協で取り組む「旬石井養豚センター」(㈱ウインナークラブ)の豚でも同様の取り組みをしているので印象的でした。

また、庄内地域では太陽光発電やその利益を地域づくりにつなげる取り組みがすすんでいます。地域の自然資源を活かした電気をつくり広めることで、協働の力で共同社会が育ちます。エネルギー(E)と、食料(F)、福祉・たすけあい(C)が自給可能な構想となっているのを知り、エネルギーが持続可能な地域社会をつくるのに重要であることを再認識しました。

今回の交流会で、庄内地域独自の農畜産業の持続可能性、自給循環の取り組みが着実にすすんでいる様子がひしひしと伝わってきました。『竜おうみ米』を主軸とした私たちの主産地づくりの取り組みをすすめていきたいと改めて思いました。

泉州地域

エスチャンネル⑤ せっけん

7月12日(月)
オンライン開催

泉州地域理事 宮田 恭子

生物が 住みやすい自然へ 思いをはせよう



毎日の暮らしの中で気になっていることについて主体的に考え、活動への参加を促す場としてエスチャンネル企画があります。今回はせっけんをテーマに企画し、2名が参加しました。

事前にスーパーの洗剤売り場で売られている商品を調べると、洗濯洗剤は液体が主流で、部屋干しのおい消しに「という表示が目につきました。一回分ずつ分けられた洗剤もあり、驚きました。洗剤は何を使っているかという質問をする」と、合成洗剤を使うと皮膚が荒れるので困っていた。せっけんを使うと治まったことからせっけんを使うようになった「という人」、「市販の洗剤を使っている」という人などそれぞれでした。

界面活性剤について調べてきた人は「汚れに入り込むためにあるもの」と報告。別の参加者は「読んだ本に日本の海が汚れてきていると書かれてあった」と話し、「私たちが使った洗剤が生活排水として川や海に流れていき、川や海の問題へつながっている」と危惧していました。

組合員歴の長い地域委員が「エスコープ大阪がせっけん運動に取り組むようになったきっかけは、1970年代に琵琶湖で赤潮が発生し、水質を良くするためにせっけん運動を始めた」と説明しました。最近では「シャボン玉月間」の首長

組織活動推進会議

グリーンシステム ミニ学習会

7月8日(木)
オンライン開催

常務理事 糸川 江里子

グリーンシステム… Garbage Reduction for Ecology and Earth's Necessity=地球生態系のためのごみ減量

Rびんを必ず返して グリーンシステムを 広めよう！

機感を訴えられました。

「グリーンシステム」を社会に広めるため、生活クラブ連合会では2021年度も9～11月に「Rびん回収率UPキャンペーン」に取り組んでいます。その事前学習会として、「Rびんミニ学習会がオンラインで開催され、エスコープ大阪から理事・地域委員15名が参加しました。連合会全体では178名の参加がありました。

Rびんの洗びん業者「㈱トベ商事」の戸部昇さんより「川下から見た循環型社会」と題した講演がありました。回収されたRびんが工場内で洗浄され、不良びんを取り除き、再使用できるまでの様子を映像で見せていただきました。

各生協による活動の事例共有と意見交換では、エスコープ大阪からも独自企画について報告し、一人ひとりが「グリーンシステム」に参加している意識を持つて、Rびん回収率アップにつなげようと呼びかけました。

エスコープ大阪では、今年も9～11月に「Rびん回収率UPキャンペーン」を開催して、全Rびん回収率85%を目指しています。

メッセージ取得活動で市を訪問した際、カイワレ実験を見せたことも話し、せっけんは植物の生育を阻害せず、環境への負荷が少ないことに興味を示した人もいました。

ひとつのテーマについて何人かで話す機会があり、何かに気づくことがあります。エスチャンネルでは消費材の生産者を訪ねたこともあり、感じ取ったことが消費材への愛着となり応援していきたい思いにもなります。地域委員会で企画しているエスチャンネルに参加してみませんか。



こんにちは! 近畿親生会です <第2回>

(有)王隠堂農園 代表取締役社長 王隠堂 正悟哉さん



7月におこなわれた総会で「生活クラブ近畿親生会」会長に任命されました、「王隠堂農園」の王隠堂正悟哉です。

近畿親生会は、生活クラブの活動に積極的に参加し、生活クラブ及び会員生産者の発展向上に寄与することを目的とした組織です。生活クラブの良さは、組合員と生産者が交流することで相互に理解し、繋がることにあると思います。昨年よりコロナ禍に見舞われながらも、オンライン交流を積極的におこない、組合員と生産者の

消費材以外にも目を向けて いろいろな情報を届けたい



有川 和輝(36歳)

エスコープ大阪在籍年数1年8ヵ月
[共同購入フロア・泉北支所]

こんにちは！昨年1月に入協して、バタバタと1年以上が経過しました。コロナ禍の影響と夏の厳しい暑さでの配達に苦戦中ですが、組合員の皆さんに笑顔で消費材をお届けできるよう、毎日頑張っています。

家族は3歳と2歳の娘がおり、上の子は今年から幼稚園が始まりました。最初は嫌がっていましたが、最近では毎日楽しく登園しています。

います。下の子はわがまま期の真っ最中で、自分の思い通りにならないと、泣き叫んでアピールしてきます。それでも、そんな二人の成長が毎日楽しみなパパです。

最近では消費材を使い、妻の料理を手伝いながら食材と料理の勉強をしています。オススメの消費材は、少し前に冷蔵供給が始まった鶏肉です。最近では「鶏ササミ」を使ったポン酢和えを作り、子ども達にも大好評でした。皆さんの鶏肉料理のオススメもぜひ教えて下さいね。まだまだ未熟な私ですが、消費材のこと以外にも目を向け、組合員の皆さんにいろいろな情報をお届けできるように頑張ります。

絆づくりを続けてきました。オンラインであっても組合員の皆さんと交流できたことは私たち生産者にとつて、皆さんと繋がっていることを再認識し、前を向いて頑張れる機会になりました。

近畿親生会では、今回の総会で役員の若返りが図られ、私と同世代の方が役員に多数任命されました。この関係を子や孫の世代まで引き継いでいけるよう、今まで以上に生産者同士の横のつながりを持ちながら新たな時代に向けて組合員と生産者の絆がより強固なものになるよう活動していきたいと思っています。

皆さんに直接お会いできる日を楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひします。



第3回
理事会報告 <8月4日>

【6月度決算報告】

- 供給高 2億3,842万円(前年同月比92.8%)
*配達日数は1日少ない。
- 組合員数 19,069名(前月比+14名)
- 一人当たりの出資金 86,038円

【7月の放射能検査結果】

7月は連合消費材747検体、関西消費材3検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①理事長、専務理事に事故がある場合の常務理事の職務執行順序について
- ②パート職員就業規則と嘱託パート賃金規程の改訂

【協議事項】

- ①2021年度温州みかんシーズン予約取り組みの確認
- ②旬菜セットの反省会・作付け会議の変更について
- ③連合会Rびん回収率UPキャンペーン取り組み
- ④2021年度エコライフのつどい参加について
- ⑤「未来へつなげる♪エネルギーアクション」パブリックコメント提出活動
- ⑥エコロ共済学習会交流会への参加について
- ⑦大阪市南・中河内地域準備会の畑を活用した消費コミュニティづくり



エスコープ大阪
Rびん回収率 <7月実績>

2021年度Rびん85%以上の回収を達成しよう！
食べるカタログ・びん本体のマークが目印です。

	供給	回収	回収率
7月	14,588 本	10,356 本	71%
4～7月	52,368 本	37,107 本	71%

只今「回収率UPキャンペーン」実施中。夏にたくさん利用したRびんも返してね！

編集後記

温州みかん取り組みについての紙面としては、これまでと趣向を変えて生協とは取引のない農協にお話を伺いました。お世話になった土谷さんは産地の状況をよくご存じで、作物の生態にも詳しい方でした。「植物も人間と同じでホルモンに支配されています。」の言葉に、年齢的にもすごく体の変化を実感…痛感しているだけに大きく頷きました。そのホルモンに影響を与える自然環境や暮らしの環境に注視していくことが必要です。(O)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪
〒590-0151 堺市南区小代727
TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022
<https://s-osaka.seikatsuclub.coop/>

気候変動は常態化

何十年に一度といわれる自然災害が頻繁に発生していることから、もはや異常気象とはいえない段階まで気候が変わりだしています。日本の四季は豊かな食べ物を育てるベースになっていましたが、そのベースが崩れて農作物の生育に大きな影響が出ています。平均気温の上昇は作物の適地を北上させていますが、季節移行の早まりだけではなく短期間での極端な気温変化や雨の降り方の熱帯化に農作物はついていけない状況になっています。何代にもわたって農作物を生産し続けてきた、生産者の経験をもってもすぐには対応できない問題です。まずは、生産現場でなにが起こっているかを知り生産者と共に解決方法を探っていくことが大切です。

毎年おこっている
提携生産者の被害

特に私たちが季節を感じることが
できる果物の栽培には大きな影響が
出ています。果樹栽培は木を植えて
から、収穫できるまでに何年もかかり
ます。また一度植えた木は長期にわ
たり収穫をしていきます。日本の果
物は一年に一度収穫をするものがほ
とんどで、収量に影響するような被害
にあうと生産者の1年間の労力が報
われなくなります。すぐに気候危機
に対応するように品種改良し植え替
えることもできません。一昨年の豊
共園の台風被害による倒木の植え替
えにも数年かかったように苗木の確
保にも時間を要するものです。

楽しみにしている
季節の果物はシーズン予約で
しっかり消費!!

2021年度、サクランボは予定
の20%しかお届けできませんでし
た。季節の移行がはやり早く暖か
くなったことで開花が早まりました。

しかし寒の戻りは例年通りあるため、
咲いてしまった花に霜が付き(凍って
しまい)実がつかせませんでした。
りんごもサクランボ同様に凍霜害
により一番大事な中心花(主要な枝の
真ん中の花)に実がついていない園地
が多く出ました。脇芽の果実の場合
形がいびつになるものも出てきます
が、今年はそれも含めて食べていま
す。品種によりますが、お届けでき
る量は例年の80%～60%になる見込み
です。梨も同様に園地によっては被
害が出ました。特に赤ナシ系の収量
が少なくなっています。

柿は収量への被害まではなく順調
ですが、今までにないお盆前後の豪雨
と長雨で実が大きくなり品質にどの
ように影響するか生産者としても経
験したことがなく、見守るしかない状
況です。また例年おこなわない病気
対策への防除が必要になるかもしれ
ません。

貴重になりつつある秋の恵みを
シーズン予約することで、異常気象の
中農業を守りつつけている生産者に
も安心してもらいたいと思います。
(専務理事 石川雅可年)

おたよりネット



「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。
配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

ペンネーム:まさ子ちゃんより
(河内長野・大阪狭山地域)

今年も「中井さん」の新茶の季節を楽しみにしていました。数年前に茶畑にお邪魔し、栽培方法やお茶にするまでの工程をていねいに説明していただき、中井さんの人となりに感激しました。後に、新聞の一面に畑の写真が掲載され自分のことの様にうれしくなり、班のお友達に見せたり掲示板に貼らせてもらいました。今後も安心して飲めるお茶の提供をよろしくお願いいたします。

222号2面「一人ひとりの暮らしの変化が環境を
動かす力に」を読んで

紙面モニター Aさん

「一人がしても…」ゴミを減らす為のものすごくさいな(努力)行動や「せっけん」を使うことをすすめた時に言われる言葉です。でも、やっぱり一人の行動が大切なのだと思います。家庭から出される化学物質の割合の円グラフが分かり易かったです。それにしても他の人にするせっけん生活のすすめは難しいです。

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)
●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。
この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
224号(2021.9.27)